

自分自身の研究では、2011年刊行の京大隊によるパキスタン・ラニガト遺跡の報告書でガンダーラの仏教時代の土器編年を発表したこと、2012年に弥生文化博物館と安土城考古博物館で相次いで開催された銅鐸展の図録に、それまでの研究を纏めて発表したこと等が思い浮かぶ。

60歳、まだ老いる年でもあるまい。やり残した、近世・近代の土器作り関係資料の整理等もある。自分の研究を楽しみ、さらに深めたい。

(埋蔵文化財センター長 難波 洋三)

❀ 七年間の記憶

53歳の年、私は20年以上勤務した京都国立博物館から奈良文化財研究所に異動となった。最初の2年間は都城発掘調査部の考古第一研究室長であったが、奈文研で一番楽しかったのはこの時期のような気がする。当時の平城の室員は和田一之輔さん、城倉正祥さん、国武貞克さんの3名で、翌年、和田さんが文化庁に転出し芝康次郎さんが新室員となった。若くまだ柔軟な好奇心を持つ彼らに、考古資料だけでなく伝世文化財を含めた物質文化の総体についての知識が考古第一の仕事には役立つことを正倉院展の見学等を通じて様々な機会に教え、奈文研職員がほとんど無関心であった近世考古学の面白さ等も伝授したつもりである。また、深澤芳樹さんから引き継いだ第一次大極殿院の学報を、森川実さんや北野智子さんの大変な努力により2011年春に何とか刊行できたことも思い出に残っている。



今西課長・小野副所長・難波センター長(左から)